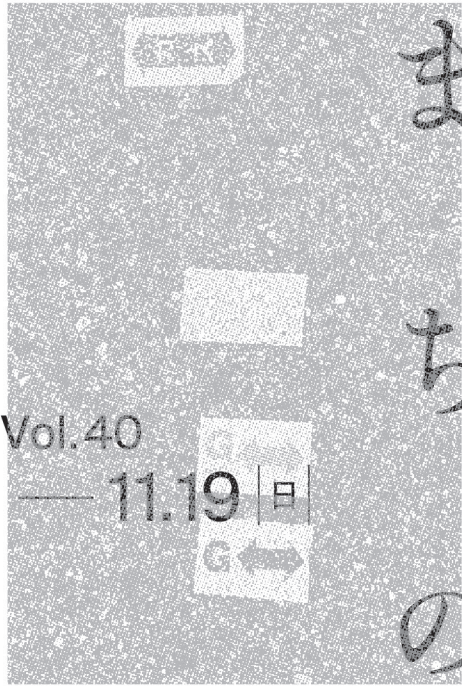


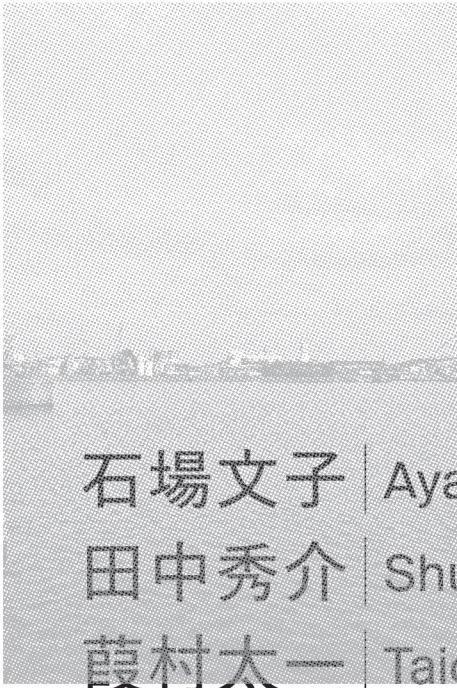
A-LAB Exhibition Vol.40
 2023.10.7 | 土 | — 11.19 | 日



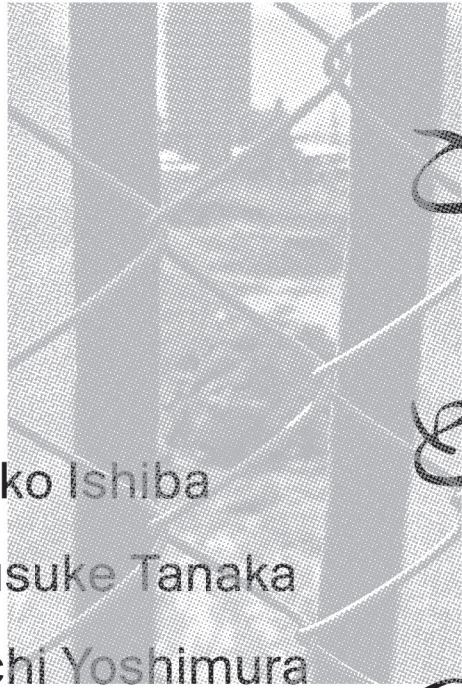
ま
ち
の



Ayako Ishiba



石場文子 | Ayako Ishiba
 田中秀介 | Shusuke Tanaka
 葭村太一 | Taichi Yoshimura



こ
と
づ
て



Shusuke Tanaka



A
L
AB



Taichi Yoshimura

アーティストがまちをリサーチし、作品を作り上げる展覧会「まちのことづて」。

ものや人、場所どのふれあいを独自の表現につなげる3者に思いを託し、尼崎のまちを歩いていただきました。

石場は、眼でふれるようにものをみて、手で確かめながらものあり方や見方を再提示する。田中はその場面その光景にふれ、与えられた体感をもとに描く。葭村は、目につきにくいかつ目の前

にあるわけではなく消えてなくなりそうな部分を丁寧に掏うかのようにふれながら確かめる。

それぞれのふれ方で読み解いたまちを、そして、それぞれが刺激しあう展示をお楽しみください。

A-LAB Exhibition Vol.40

まちのことづて

2023.10.7 | 土 | — 11.19 | 日 |

[トークイベント]

2023年10月9日(月・祝) | 14:00-15:30

A-LABアドバイザーの原久子氏が聞き手となり、3人が尼崎で出会ったものや制作経過を紹介。9月4日(月)から申込開始。定員先着20人。メール (amalove.a.lab@gmail.com) で申込必要。(イベント名、氏名、年齢、電話番号を明記)

[田中秀介と歩く尼崎]

2023年11月4日(土) | 10:30ポートルース尼崎集合(4時間程度)

ポートルース尼崎や商店街など、描かれた場所を作者の田中秀介と巡り歩きます。9月4日(月)から申込開始。定員先着10人。メール (amalove.a.lab@gmail.com) で申込必要。(イベント名、氏名、年齢、電話番号を明記)

*ポートルース尼崎入場料100円や昼食などは各自のご負担になりますのでご了承ください。

1

石場文子 | Ayako Ishiba

道端に落ちている何かを見てドキッとした経験はないでしょうか。そして、それが手袋だとわかった瞬間、私は安堵します。落ちている何かも手袋も存在は変わらない、同じものなのに、私の認識の違い一つで世界の見え方は大きく異なります。人は一体何をもってモノをモノとして見ているのか。違う見方を提示したい、私自身を含め、鑑賞者の見ている世界、視野を広げたい。誰かがこうだと決め付けたことに対し、私は作品を通して笑ってやるのです。

1991年兵庫県生まれ。2014年京都嵯峨芸術大学造形学科版画分野卒業。2016年愛知県立芸術大学大学院美術研究科修了。主な展覧会に、2022年「感性の遊び場」ANB Tokyo(東京)、2019年「あいちトリエンナーレ 2019—情の時代」愛知県美術館(愛知)、2019年「VOCA展2019」上野の森美術館(東京)など。

2

田中秀介 | Shusuke Tanaka

寝て、起きて動きだす。動き出すと見渡す。見渡し、それは自発的か偶発的かやがてその何かと対峙する。対峙すると、そこに在るあらゆる物事が合致した状況が、光景として一挙に私の眼前に立ち現れる。それはあまりに複雑に入り組んでいるものの、あからさまに一つとして立ち現れ、そしていつしか更新され、同じ光景を目の当たりにする事はない。このとりとめのない、しかし歴然とした、常に更新される光景を、どうにか腑に落とそうとしている。これらを腑に落とす術として、光景の解釈に取り掛かる。この解釈への取り組みが私にとって描く事となる。何を指し示すかわからない光景は、描く事で何かを指し示す光景へと解釈され、絵となる。

1986年和歌山県生まれ。2009年大阪芸術大学美術学科油画コース卒業。主な展覧会に、2023年「VOCA展2023」上野の森美術館(東京)、2022年「田中秀介展—絵をくぐる大阪市立自然史博物館」大阪市立自然史博物館(大阪)、2020年「なつやすみの美術館 10:あまたの先日ひしめて今日」和歌山県立近代美術館(和歌山)など。

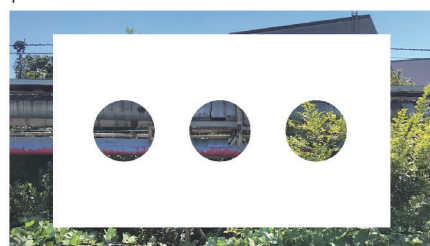
3

葭村太一 | Taichi Yoshimura

人間の意識、痕跡や記憶、それらを想起させるような彫刻作品を制作する。サンプリングという技法を用いて制作することが多いが、抜き出された見本はすでに無くなった物事が多い。それらを復元するように作られた彫刻は、物体としては曖昧で不自然なものが現れる。彫刻を軸に、作品に応じてその他メディアを組み合わせながら、過去と現代の接続を試みる。

1986年兵庫県生まれ。2009年大阪芸術大学デザイン学科卒業。主な展覧会に、2023年「study:大阪関西国際芸術祭」グランフロント大阪 うめきた広場サブスペース(大阪)、2022年「奈良・町家の芸術祭はならあと2022」天理市の旧サーフショップ(奈良)、2022年「34°40'33" N 135°29'55" E」Marco Gallery(大阪)など。

1



『まど_2023amagasaki』(映像作品)2023

2



『先見売りの面子』2023

3



『34°43'10" N 135°24'47" E』2022

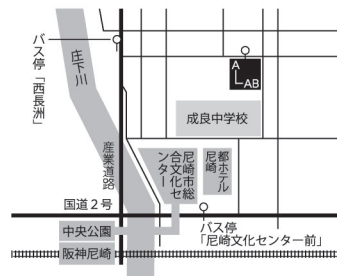
住所:
尼崎市西長洲町2-33-1
会場に一般用駐車場はありません

問い合わせ先:
A-LAB Tel./Fax. 06-7163-7108
市役所文化振興課 06-6489-6385

@alab_amalove
@amalove.a.lab
www.ama-a-lab.com

開館時間:
平日: 11:00-19:00
土日祝: 10:00-18:00

休館日: 火曜日
入場料: 無料



A LAB